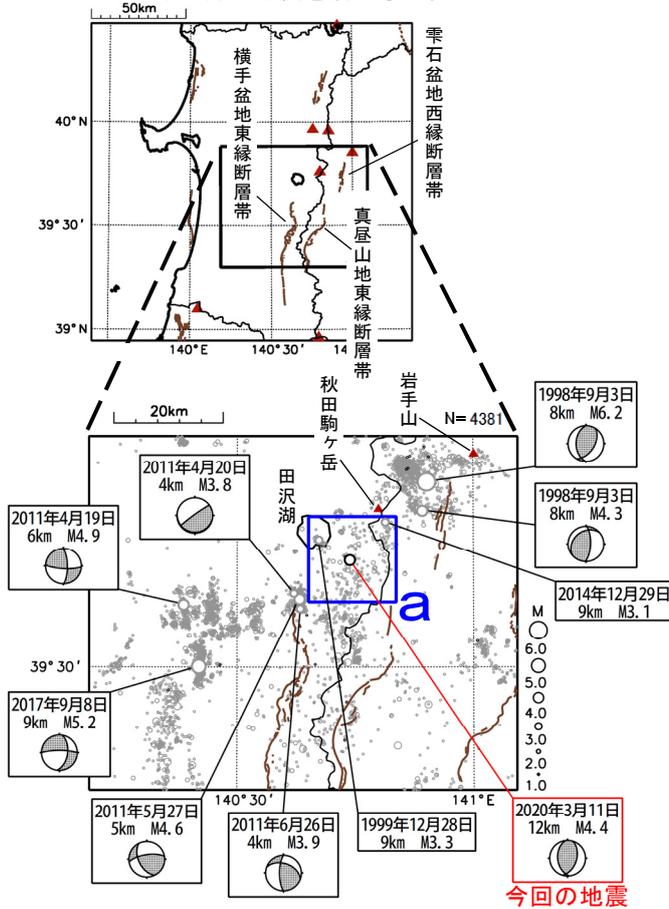


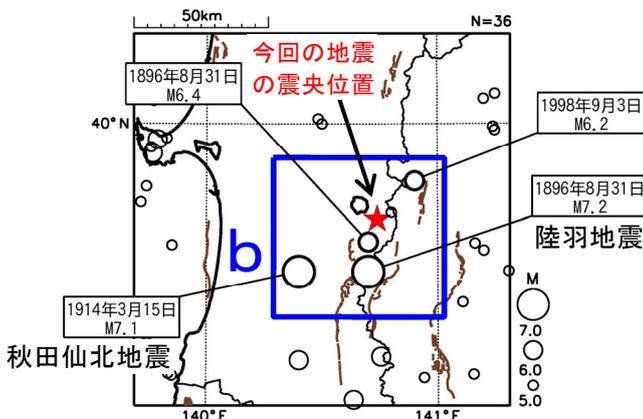
3月11日 秋田県内陸南部の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2020年3月31日、
深さ0～30km、M≥1.0)
2020年3月の地震を濃い○で表示



図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層帯、赤色の三角形は活火山を示す。

震央分布図
(1885年1月1日～2020年3月31日、
深さ0～100km、M≥5.0)

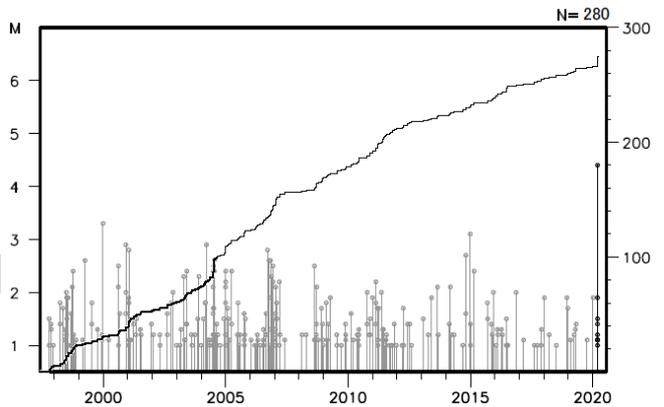


図中の茶色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層帯を示す。

2020年3月11日13時04分に秋田県内陸南部の深さ12kmでM4.4の地震（最大震度4）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

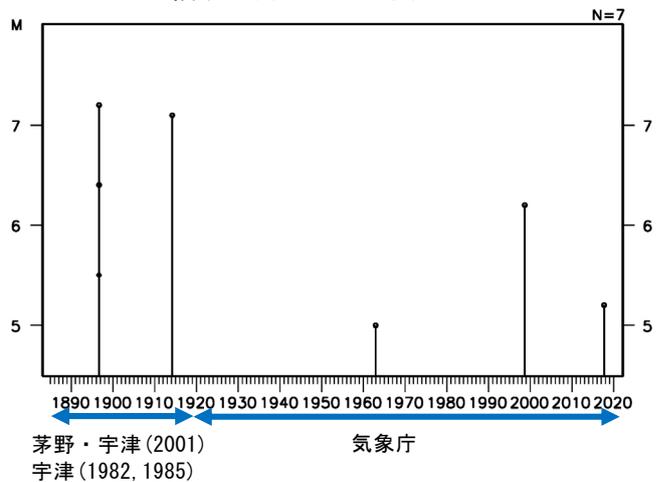
1997年10月以降の地震活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、1999年12月28日に発生したM3.3の地震（最大震度1）、2014年12月29日に発生したM3.1の地震（最大震度1）などM3.0前後の活動がみられていたが、これまでM4.0以上の規模の地震はなかった。

領域a内のM-T図及び回数積算図



1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域b）では、1896年8月31日に陸羽地震（M7.2）が発生し、死者209人、負傷者779人、家屋全壊5792棟等の被害が生じた。また、1914年3月15日に秋田仙北地震（M7.1、強首（こわくび）地震とも呼ばれる）が発生し、死者94人、負傷者324人、住家全壊640棟等の被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域b内のM-T図



震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982, 1985)による。

宇津徳治(1982):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年,震研彙報,56,401-463.

宇津徳治(1985):日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表:1885年～1980年(訂正と追加),震研彙報,60,639-642.

茅野一郎・宇津徳治(2001):日本の主な地震の表,「地震の事典」第2版,朝倉書店,657pp.